

令和 4 (2022) 年度

## 自己点検評価報告書

(事業計画及び事業報告、組織の PDCA チェックシート、  
授業評価アンケート集計結果、諸データ)

令和 5 (2023) 年 3 月

宮崎学園短期大学

## 令和4（2022）年度事業計画及び事業報告書

宮崎学園短期大学

### はじめに

人口減少・高齢化の進行の中で、「誰一人取り残さない」元気で健やかな産業と生活の実現が求められている。本学は地元諸団体や諸機関と連携し、進学希望者が憧れ、地元からの期待にしっかりと応える教育、研究を追求し、社会の発展に貢献していく。

### 重点施策及び継続的重要業務

中長期計画（2021-2030）における令和4（2022）年度の重点施策を下記に記す。

#### ①教育力の向上

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1.教学マネジメントの確立	<ul style="list-style-type: none"><li>・全学／学科 DP の見直し</li><li>・カリキュラムの見直し 履修順序、履修要件、一般教育科目等</li><li>・IR センターによるアセスメント体制の構築 アセスメントポリシーの見直し、改善のシステム化</li><li>・学修成果の可視化（多元的な可視化の追求）</li><li>・積極的な情報公開</li></ul>	<p>学科 DP について、DP の各要素と各科目を紐づけるカリキュラムマップを新たに作成した。</p> <p>令和5年度からのカリキュラムについて、両学科ともにカリキュラムの見直しを行い、あわせて履修順序等についても見直した。今後、その効果について検証する。また、保育科においては、質保証と学生の実習での躓きを予防するうえでも、実習の履修要件の厳格化を図る必要があり、その仕組みについて検討を行った。</p> <p>アセスメントポリシーを新たに制定し、教学マネジメントシステムについて新たに制定した。</p> <p>学習成果の可視化について、学科 DP 自己評価をループリック化し、修得した各能力の把握を容易にした。令和5年度の完成年度に合わせ、課題を洗い出していく。</p> <p>情報公開に関しては、HP 上で従来から開示してきた情報内容を随時更新しているが、まだ一部で更新が遅れている項目も見られるので早急な対応を行う。</p>
2.学生の自律的学修を促す PDCA サイクルの見直し	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価方法、指導方法、組織体制 自己の成長への満足度 90%</li></ul>	学生自身が目標を明確に意識しつつ主体的に学修するよう、その成果を自らが適切に評価する方法に

		について、学修状況の進捗をみるポートフォリオを活用してきた。課題として、そのポートフォリオの活用方法や支援体制・方法について、さらに検討していく必要がある。
3.学生表彰制度の見直し	・学長賞の見直し ・卓越した学生への奨学金制度の見直し	現在の学長賞の形になって2年が経過した。学長賞の価値が下がらないよう選抜基準の妥当性や選考枠の見直しを図りたい。
4.キャリア教育の充実	・人間の研究Ⅰ・Ⅱの見直し ・新規科目開設の必要性について検討	「人間の研究」変更初年度を終えて、開講の仕方や科目内容について課題も見えてきた。各学科によっても押さえるべき内容が違う部分もあるためでも違いがあるため、学科とも連携しながらより充実した科目へと発展させていきたい。
5.リメディアル教育（初年次教育）体制の確立	・組織、人員、教育目標の見直し	基礎力リサーチや宮短基礎力向上ドリルの活用がまだ不足している。学科DPの達成目標にも基礎学力の向上を取り入れているため、次年度は初年次教育科目にドリルの導入を進めるほか、一般教育科目との連携により活用をさらに進める。
6.SDGs教育・分野横断カリキュラムの検討（国際大学と連携）	・SDGs教育及び分野横断カリキュラムについて、本学としてのあり方を検討。国際大学と連携	専門教育の中でSDGs関連情報を取り入れた講義科目はシラバスにSDGs関連科目であることを明記した。現在22科目でSDGs関連項目を取り入れた授業を行っているが今後さらに科目数を増やしていく。

## ②保育科

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1.経験学習の充実  実習、ボランティア、課外活動等)	・模擬保育環境の整備	実習はできる限り、現場で行うように工夫し運営した。ボランティアなどの活動は低調であった。 今後、増加した資格関連の実習のスムーズな運営が課題である。
2.カリキュラムの見直し	・新規取得資格の開拓 認定絵本士 医療的ケア関連資格（本学独自）	認定絵本士、幼児体育指導員資格の導入が決定した。次年度は円滑に講座を開講できるよう進めるとともに、学生へ資格内容の周知を

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼節・勤労の充実と見直し</li> </ul>	図る。
3.他大学との連携による学びの発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験学習プロジェクト 一般社団法人学修評価・教育開発協議会による経験学習プログラム等への参加</li> </ul>	コロナ禍によって実習日程が大きく変更する中で、経験学習プロジェクトへの参加が難しい状況が続いている。本プロジェクトだけでなく他大学などと連携した学びができるないか検討していきたい。
四.付属幼稚園（幼保連携型認定こども園）との積極的連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属認定こども園との協同研究や勉強会の開催</li> <li>・こども理解プロジェクトの推進</li> </ul>	保育環境やおもちゃの講習会をはじめ附属認定こども園との合同研修や勉強会、こども理解プロジェクトの会議など数多く開催された。今後は決まった教員だけではなくより多くの保育科教員が参加することで保育現場への理解と連携を深めたい。
5.県内保育所・幼稚園等との連携した研究発表会開催、学会の設立	<p>(中長期計画では令和8年度実施であるが前倒しする)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内保育団体との連携強化</li> <li>・最先端外部講師を招聘し、学生向けの講演会の実施</li> <li>・保育・幼児教育センターの設立</li> </ul>	幼児教育・保育センター企画による最先端外部講師の講演会が実施された。県内の保育3団体に加えて、県の保育支援センターなどとの連携が進められた。幼児教育・保育センターの定着と充実を図りたい。
6.教員の研究活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献・外部でのフィールドワーク等</li> </ul>	附属認定こども園との連携による研究などは進んだが、外部でのフィールドワークは低調であった。研究への意識の向上とともに、時間の確保や環境整備も必要である。
7.外部アセスメント結果に基づく学生の基礎学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育の発展</li> </ul>	初年次教育は定着してきたが、「読む、書く」などへの課題のある学生が多く、各授業においても意識的な工夫が必要である。
8.学生のICT活用能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した新たな教授法の研究</li> <li>・保育業務システムの体験コーナー設置と活用</li> </ul>	保育業務システムは民間企業の協力により無償で体験コーナーの設置と企業講師による講習が実現できた。今後も継続・充実を図りたい。
9.実習指導体制の発展・実習指導内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生・経験者による指導</li> <li>・実習指導の手引きの改善</li> </ul>	卒業生・経験者による指導は実施できた。コロナ禍で柔軟運用された実習参加要件を再度厳格化し、実習の手引きにもわかりやすい形で示していく。

10. 宮崎学園グループとの連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、短大、高校、認定こども園との定期的な意見交換会の開催</li> <li>・高大連携の強化</li> </ul>	定期の意見交換以外にも隨時情報交換を行った。高大連携は、学生募集の要諦であり、さらに連携を深める必要がある。今後は中学校などへも協力し保育の魅力を伝えることが必要である。
11. 大学・短大合同教職課程(幼稚園)の設置	附属こども園との連携による往還型学習の検討	乳児保育の中で後期から往還型学習を導入し、学生の現場体験の充実を図った。 今後も継続・発展させたい。

### ③現代ビジネス科

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1. 学科の専門性の充実と魅力づくり	<p>教育課程の抜本的見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース選択時期の変更</li> <li>・カリキュラム体系等の変更・定期的見直し</li> <li>・新たな教育手段の検討</li> <li>・専門教育科目・必修科目の見直し（魅力ある授業科目の開発）</li> <li>・専門科目配置の見直し</li> <li>・企業と連携した長期現場研修（デュアルシステム）導入</li> <li>・四大編入推進</li> </ul> <p>学期制の見直し</p>	<p><b>【達成状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度から4コース制に学科改編し、コース選択時期を入学試験受験時から入学後のオリエンテーション説明後に変えた。</li> <li>・学科改編に伴い大きくカリキュラムを変えたが、令和5年度入学生から長期現場実習を取り入れるなど更なる充実を図った。また、Society5,0に対応した新科目「DX活用基礎論」も導入した。</li> <li>・四大編入推進を図るために、市内の普通科系県立高校との連携を密にして、入学生を確保した。</li> <li>・学期制の見直しについては、学科改編により必要性が低くなり、検討しなかった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度（令和5年度）が、4コース制へと学科改編した完成年度であるので、改編時の目的「高い専門性を保ち、より広くて柔軟な学びの提供」を更に追及し、時代や地域社会、保護者や高校生の様々なニーズに応えることのできる学科へと進化し続けること必要である。</li> </ul>

2.キャリア教育と進路支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育の充実（基礎力向上）</li> <li>・学生サポート体制の見直し</li> <li>・資格、検定取得の促進</li> <li>・学生の職業的自立支援の充実</li> <li>・国際大学との連携による編入学のための英語力強化</li> </ul>	<p><b>【達成状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディスキル I a I b を核に基礎学力向上に取り組んだが、学生の質自体が年々向上してきており、学科の学修集団としての基礎力が向上してきている。</li> <li>・4コース制の一学期である1年生については二人の担任と四人のコース主任による学生支援体制の充実を図った。</li> <li>・資格取得推進については、1年生が秘書検定で協会から団体優秀賞、2年生が全国実務教育協会会長賞を受賞した。</li> <li>・学生の職業的自立支援の充実を図るために、5月に地元企業11社の企業説明会を学内で実施するなど、平成30年に地域を支える人材育成教育を柱とする包括連携を締結した宮崎県中小企業家同友会との連携を更に強化した。</li> <li>・大学編入に必要な英語力強化のための国際大学との連携推進には至っていない。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司書メディアコミュニケーションコースを設置することで、司書を目指して入学する学生が増えたが、気質的に大人しく一人が好きといったコミュニケーション力に課題を抱えた学生も増えてきた。学生ひとり一人の成長をきめ細かに支援し、小さな成功体験を積み重ね自己肯定感を醸成できる支援がより一層重要になってきている。</li> </ul>
3.学科ブランディングの推進 学科イメージの可視化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果の見える化による内部質保証システム構築</li> <li>・魅力ある授業動画の配信</li> <li>・在学生・卒業生のイメージ動画化（就職先等）</li> <li>・高大連携強化</li> </ul>	<p><b>【達成状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科D Pを見直し、学生が自身の成長をより明確に判断できるループリック評価に改善した。また、専門性の向上についてのより客観的な成果指標として、実務士協会のループリック評価との連動を図った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業動画の配信は行わなかつたが、学生が地元企業との連携で作成した youtube 動画は多数配信できた。</li> <li>連携協定のある福島高校とは地域創生の探究活動支援で年間を通じて連携強化した。また、宮崎学園高校経営情報科との連携も 3 月に体験入学会を実施するなど充実を図った。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より一層の学生の質の向上に努め、大学編入等の実績を上げ、学科ブランディングを推進することが最大の課題である。</li> </ul>	
4.定員充足	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試広報部と連携した高校訪問、出前授業の実施</li> <li>学科所属教員による高校訪問</li> <li>学生の出身高校訪問</li> <li>募集拡大重点校訪問 (普通科、宮崎市内、日豊本線沿線、児湯、県北、都城、)</li> <li>高校開拓 (大隅半島、霧島市、人吉方面)</li> </ul>	<p><b>【達成状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入試広報部とお互いに情報交換しあい適宜学科教員による高校訪問も実施した。また、進路ガイダンス等高校に出向く機会も徐々に増加している。</li> <li>年度後半は特に普通科系高校の県立高校を重点訪問校として、3 年学年主任、3 年担任等に直接説明をする機会を作った。</li> <li>今年度新たに、人吉市内、川内・阿久根方面、鹿屋・国分方面に夏季休業中に複数の学科教員で高校開拓を行なった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校訪問等の充実には今後も取り組んで行くが、高校生に直接学科の魅力や学びの面白さを伝えることのできる機会を如何に増やせるかも課題である。</li> </ul>

#### ④専攻科（福祉専攻）

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1.幅広い教育方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT を活用した社会人教育等</li> </ul>	コロナ禍で得た ICT を活用した教育はできたものの、社会人教育まで発展させることができなかつた。
2.資格取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉士国家試験全員合格</li> </ul>	100% 合格を達成できた。

3.定員充足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育科教員との情報共有</li> <li>・専攻科の魅力の伝達強化</li> </ul>	入学者数を増やすことができたが、まだまだ努力が必要である。次年度も同数以上が確保できるよう対策を講じたい。
--------	--	---

## ⑤経営改善

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1.ブランド力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・伝統の強みを活かした卒業生の活躍を可視化した広報</li> <li>・高校生・保護者のニーズに適した広報媒体・体制の検討</li> <li>・専門性を生かした高大連携</li> <li>・保育科への男子学生への広報強化</li> <li>・学生内定者や社会人選抜入学者のHP上での紹介</li> </ul>	卒業生の活躍は「忍ヶ丘」などで、紹介した。連携協定を締結している高校との高大連携はしっかりと進んでいる。高校生や保護者のニーズについては、OCアンケートなどで拾い上げており、対応をその都度考えている。男子学生への広報の在り方は再考が必要。社会人選抜による入学者の紹介は本年度、様々な形で実施することができた。
2.卒後支援強化による他大学との差別化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒応援プロジェクト設置 ホームカミングデーの実施</li> <li>・社会人が学びやすい履修制度の見直し</li> <li>・講師・講座バンクの公開</li> </ul>	本学専任教員の担当できる講座一覧を作成し、外部での講演も増えてきている。卒業生に対する支援も次年度に実行する予定であるため、同窓会とも連携しながら第1回目を開催できるように進めていきたい。

## ⑥運営体制の改善

事業計画	取組内容	達成状況・課題
1.教員組織の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再課程認定における領域への変更のための体制整備</li> <li>・将来を考えた教員組織への提案</li> </ul>	再課程認定の申請は通ったものの、今後教職課程に係る教員の研究業績については課題がある。組織的に研究業績を増やすことができる体制が必要である。
2.新制度による入学者選抜に関する見直しと整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選考方法</li> <li>・入試方法（コロナ禍）</li> <li>・奨学金制度の見直し・検証</li> </ul>	調査書の評価方法については、採点基準を明確にするなど、5年度に抜本的な見直しを予定している。奨学金についても本年度の結果を踏まえ軽微な変更を行った。
3.学生募集体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職協働による計画的かつタイミングのいい高校訪問</li> <li>・地区別進学説明会の実施</li> <li>・高校教員対象説明会の実施</li> <li>・月1回の週末見学会の実施</li> </ul>	教職協働の部分が十分に果たせなかつた。各説明会はOCも含め、十分に意義を發揮できている。5年度は、特にOCへの集客に力を入れたい。

4. ブランディング強化のための広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ CM などによる学科の認知度向上</li> <li>・HP他、SNS媒体の内容充実等</li> </ul>	O Cに参加した高校生へのアンケートを見ても、テレビCMの効果に比べて、HP、SNSの効果の方がかなり大きいことが分かった。5年度は、SNS等による募集強化を図りたいと考えている。
5. 特性や障害等のある学生への支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見・支援のための情報収拾</li> <li>・教職員相互の連携を密にした支援体制の確立</li> <li>・外部機関との連携を密にした支援体制</li> </ul>	入学生の合理的配慮を申請した学生の情報を3月に収集し、必要がある学生については、入学前に電話での確認やケース会を実施し、早期支援につながった。 課題として、学科、学年での支援体制は大きな問題は見られないが、非常勤の先生方への十分な情報が伝わらなかつたケースがあり、今後の検討課題である。
6. 大学事務職員としての専門性向上チーム設置（大学・短大）		SD研修の充実は課題である。他大学とも連携しながら専門性及び業務スキルアップの向上に資する研修を検討していきたい。
7. 日常業務スキルアップ研修の実施（大学・短大）		
8. 施設設備の計画的な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正門周辺改修工事</li> <li>・宮崎国際大学との共有施設・備品等の管理方法の検討</li> </ul>	正門周辺の改修工事が終了し、大学短大とが一体となったキャンパスになった。今後は大学・短大が積極的に施設を相互利用するための方策を検討する必要がある。
9. 業務内容の改善・効率化推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎国際大学との事務統合にかかる情報共有（継続）</li> </ul>	学生部・教務部を移動し、事務局内での情報共有がより重要となっている。またワークフローシステムを使った決裁方法も引き続き取り組んでいく。

令和元年度に受審した認証評価において、早急に改善を要すると判断される事項として、「評価の過程で、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針が学科ごとに定められていない」という問題が認められた。当該問題については、機関別評価結果までに改善されたことを確認した。今後は、適切な自己点検・評価を行い、継続的な教育の質保証により一層取組まれたい。」と記されている。

## ⑦認証評価における指摘事項等を踏まえて

向上・充実のための課題	取組内容	達成状況・課題
①適切な自己点検・評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの意見聴取方法の再検討</li> <li>・アセスメントポリシーの検証</li> </ul>	外部評価委員会の在り方、外部からの意見聴取方法の検討がなかなか進まなかつた。補助金との兼ね合いもあることからスピード感を

		もって検討を進める。
②継続的な教育の質保証の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部と I R センターが連携し、教学マネジメント体制の構築を図る。</li> </ul>	本年度決定した教学マネジメント体制を実行するため関係部署と連携して教育の質保証に取り組んでいく。

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【 学生部 】

## 令和4年度重点目標（P）

- ① 学生一人ひとりが自らの個性を自覚し自信を持たせるような支援を行う。
- ② 学生自身が自ら考え判断し適切な行動ができるように支援を行う。
- ③ 学生相互・学生と教職員との交流の機会を充実させる。
- ④ 特性や障害のある学生、悩みを抱えた学生などを早期に発見し支援できるような体制の充実と環境の整備に努める。
- ⑤ 計画的・積極的にキャリア形成を行うために、教育活動全体でキャリア教育を推進する。

## 重点目標達成のための行動指針（D）

- ① 授業・諸行事・学友会活動等様々な機会を通じて学生が主体となって活動できる機会を増やし、学生の気づきや意見を尊重し、教職員の寄り添い見守る体制をさらに充実させる。
- ② 建学の精神を基に自由と規律と責任を理解させるとともに、依存的な行動から脱却し「自ら考え判断する」「納得する」に向けた教育活動を充実させる。
- ③ ガイダンスアワーの有効活用やカウンセラー相談、個人面談を含むあらゆる機会を捉えて、学生と教職員とのコミュニケーションを図る。
- ④ 学生生活全般に係る行政や各種機関等のあらゆる情報の収集と提供に努める。
- ⑤ 教職員の気づきを大切にし、教職員相互間の連携を密にした支援体制を充実させる。
- ⑥ 就職環境の変化に対応しながら、学生一人ひとりに対するきめ細かな支援や新しい採用試験形態に対応した求職活動に関する情報提供に努める。

## 重点目標達成度評価（C）

評価結果

- |   |                |
|---|----------------|
| ① 卒業時満足度調査において「2年間の自分の成長への満足度」全学平均85%で「3」                                 | 1 2 <b>3</b> 4 |
| ② 全学DP評価項目「I 礼節、人間尊重の精神」「II 勤労、問題解決力」「IV 協働力」について、全学平均レベル2.4で「3」          | 1 2 <b>3</b> 4 |
| ③ 支援を必要とする学生について、教職員間の気づきによる早期把握に努めるとともに、各コーディネーターを中心とした支援体制に基づく支援ができる「3」 | 1 2 <b>3</b> 4 |
| ④ 学生の変化に気づき、学生との信頼関係構築に努め、第2回の学生生活調査において「相談できる教職員」の項に「いる」という回答が80%で「3」    | 1 2 <b>3</b> 4 |
| ⑤ 7月末に2年生及び専攻科生と就職面談を実施し学生の意思確認ができる「3」                                    | 1 2 <b>3</b> 4 |
| ⑥ 就職決定率が2月末において85%で「3」  | 1 2 3 <b>4</b> |

## 評価結果に基づく次年度改善事項（A）

今年度はコロナ禍にもかかわらず、その対策を十分に考慮した行事の企画・運営を学友会が中心となって行うことができた。その結果は、多くの学生の主体性を培うことに貢献できた。次年度は更なる学生の主体性が發揮できる活動を支援していきたい。また、これらの行事等を通して、教員と学生とのコミュニケーションをとることができ、支援を必要とする学生へのかかわりを含め、丁寧に学生支援できた。次年度は、学生への丁寧なかかわりを強調し、丁寧な学生支援ができる体制を整えたい。また、学生生活全般にわたる官公庁からの情報については、学生に周知できるよう図つていきたい。

就職支援については、これまで通りの支援とキャリア教育を含めた支援を期待したい。

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【 教務部 】

令和4年度重点目標（P）	
1. 教育の質保証および教学マネジメントのための体制構築	
2. コロナ禍における授業及び実習に質の保証	
3. 保育科における領域への変更申請と新資格を含むカリキュラム内容の検討	
4. 現代ビジネス科における新カリキュラムの運用並びに効果検証	
重点目標達成のための行動指針（D）	
① 新学科 DP に対応した自己評価体制の構築 IRセンターと連携した教学情報の分析・活用 教育の質保証のため、学生の自己管理能力向上に向けたフィードバック方法の検討	
② 授業及び実習時間の確保 コロナ禍の影響を最小限に抑えた実習指導体制の充実	
③ 領域変更申請の確実な実施 領域変更に必要な教員確保に向けての活動 保育科の魅力向上につながる新たな資格取得にむけたカリキュラム等の検討	
④ 現代ビジネス科の改革に関する検討 新カリキュラム実施による教育効果の検証	
重点目標達成度評価（C）	
① 新学科 DP に対応した評価運営体制の構築ができて 3	1 2 <b>3</b> 4
② 教学マネジメントのためのデータ管理・評価体制のシステム構築ができて 3	1 <b>2</b> 3 4
③ コロナ禍に対応したハイブリット型授業の実施ができて 3	1 2 <b>3</b> 4
④ コロナ禍に対応した実習指導を計画的に実施して 3	1 2 <b>3</b> 4
⑤ 実習先における実習生評価がC以上 80%で 3	1 2 <b>3</b> 4
⑥ 関係部署との連携により、領域変更申請が達成できて 3	1 2 <b>3</b> 4
⑦ 保育科の魅力向上に資するカリキュラム等の提言ができて 3	1 2 <b>3</b> 4
⑧ 現代ビジネス科の新カリキュラムの効果検証ができて 3	1 <b>2</b> 3 4
⑨ 現代ビジネス科の魅力向上に資するカリキュラム等の提言ができて 3	1 2 <b>3</b> 4
評価結果に基づく次年度改善事項（A）	
DPに関しては、新たな学科DPに即した自己評価ループリックによる自己評価の開始など、順調に進んでいる。また、コロナ禍への対応については、国の指針に基づいた対応ができており、大きな混乱もなく順調に進めることができた。	
②の教学マネジメントについては、新たなマネジメントシステムの提案が部科長会にて了承されたが、その実施に向けた具体的なロードマップが定まっていない。	
カリキュラムについては、両学科とも新カリキュラムが承認され、次年度から導入されることとなった。今後、新カリキュラムの過不足について、効果検証を行い、より洗練されたカリキュラムにしていくつもりであり、教学マネジメントと合わせ、計画的なアセスメントの実施が必要である。	

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【 入試広報部 】

## 令和4年度重点目標（P）

- ① オープンキャンパス・個別相談会等における高校3年生の延べ来学者数540人
- ② 高校3年生の3年時での進学ガイダンス参加者数400人
- ③ 本学学生の出身校における広報活動の充実
- ④ 高等学校学習指導要領の改訂による入学者選抜方法の見直しの検討

## 重点目標達成のための行動指針（D）

- ① 例年、高校3年生の実来学者数は延べ来学者数の約65%である。また、過去2年の実来学者に対する出願者数の割合は72%→74%となっている。出願者割合75%以上を目指し、延べ来学者数540名を目指すことで、出願者数の260名以上を確保したい。本年度は、4月の授業見学会の新設とオープンキャンパスの実施回数の増加を行った。各科の先生方や全職員の協力をいただきながら、本学の魅力を伝えていきたい。高校訪問や進学ガイダンス、HP、SNSでオープンキャンパス実施の周知を徹底したい。
- ② 進学ガイダンスは高校生の学校や地元で行われるため、参加しやすい行事となっている。それが複数の学校のガイダンスを聞くので、新規に入学を希望する生徒の獲得の絶好の機会でもある。例年高校3年時のガイダンス参加者数は、250名ほどである。これを400名にすることで、①のオープンキャンパス参加者数の増加につなげたい。
- ③ 本学学生が出身校を訪問する機会を増やし、学生による広報活動の充実を図りたい。夏休み等に自主的に母校を訪問する場合に加えて、学校ガイダンスが行われる際にも学生を動員し、直に高校生と触れあえる機会を作りたい。
- ④ 高等学校においては、本年度の入学生から新しい学習指導要領が導入され、学習評価の在り方も変更された。その一部として調査書の様式も変更されることになっている。このことにより、現在の入学者選抜の変更が必要になることが考えられる。今年度は改訂により変更となる部分の調査・情報収集を完了して、令和5年度中に入学者選抜方法の変更について決定したい。

## 重点目標達成度評価（C）

評価結果

① 高校3年生の延べ参加者数が540人になって 3

1 2 3 4

② 本年の高校3年生の参加者が400人になって 3

1 2 3 4

③ 母校訪問を行う学生が50%になって 3

1 2 3 4

④ 高等学校学習指導要領の改訂における変更点の情報収集がすべてできて 3

1 2 3 4

1 2 3 4

## 評価結果に基づく次年度改善事項（A）

高校生の延べ参加者数が506名、実参加者数が308名と目標を達成することができなかった。現代ビジネス科については定員にあと1名のところまで来たので、コースの特徴をさらに浸透させ定員確保したい。保育科については、保育を目指す高校生の減少が響いているようなところもあるので、保育科の先生方とも相談の上、出前授業の機会を増やし、保育を目指す高校生の増加も図りたい。

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【 事務局（事務職員） 】

令和4年度重点目標（P）	
①大学職員としての専門性と資質向上 ②業務のスキルアップ ③業務内容の改善・効率化 ④施設設備の維持管理	
重点目標達成のための行動指針（D）	
①大学職員としての専門性と資質向上のための研修会を実施する。 ②SD推進委員会が中心となり、各部署等でのスキルアップの向上に必要な研修会を実施する。 ③各部署等で業務内容を確認し、改善・効率化を図る。 ④毎日の戸締り等確認の際に施設設備等の目視による点検を行い、不備な箇所がある場合は速やかに対処する。	
重点目標達成度評価（C）	評価結果
①専門性と資質向上のための研修が実施できて「3」	1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4
②各部署等でのスキルアップによって業務の効率化が図れて「3」	1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4
③令和4年度施設設備計画を速やかに実施するとともに不備な箇所を修繕して「3」	1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4
	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4
	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4
評価結果に基づく次年度改善事項（A）	
本年度のSD活動については、少し消極的であったため、事業計画等に記載した事項を実行できなかった。次年度は体制を変えて実行できるようにする。	
施設設備計画においては、下水道直結工事が完了した。合併処理槽の清掃が残っているが概ね完了できたことは良かった。また、後援会の協力もあり、4号館1階のプロジェクタが見えにく教室については大型液晶ディスプレイを設置することができた。次年度は、4号館4階のバルコニーに什器を設置するなどして、学生が少しでも学生生活を楽しめるような環境づくりを行っていきたい。	

## 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

### 組織名称【 保育科 】

#### 令和4年度重点目標（P）

1. 時代に対応した保育教育の質保証
2. 学生支援の充実
3. 学生募集定員充足（専攻科への進学含む）
4. 附属認定こども園をはじめとする学園グループとの連携強化
5. 研究の推進

#### 重点目標達成のための行動指針（D）

- ① 授業担当者や実習指導課と緊密に連携し、学生ひとり一人の保育実践力（記録・指導案作成能力含む）向上を図る。
- ② 学生との面談機会を確保し、学生の実態に応じた支援を推進する。
- ③ 入試広報部や幼児教育・保育センターと連携し、保育や学科（専攻科含む）の魅力を伝えるあらゆる機会を充実させ、定員充足を目指す。
- ④ 附属認定こども園や学園高校保育コースとの合同研修などの場を計画的に作る。
- ⑤ 論文執筆・学会発表等（附属認定こども園との合同研究含む）に、さらに積極的に取り組む

#### 重点目標達成度評価（C）

評価結果

①対面、遠隔両方の授業の工夫・改善を行うとともに、データに基づき学生の実態に応じた指導を行うことができて「3」	1 2 3 4
②実習指導課との緊密な連携により、実習の変更などコロナ禍の影響を最小限に抑え、運営を安定させることができて「3」	1 2 3 4
③授業満足度 60%未満の層を 12%以下、入学満足度 60%未満の層を 8%以下にできて「3」	1 2 3 4
④ガイダンスアワーや放課後の時間を工夫・活用し、個人面談等を充実させることができて「3」	1 2 3 4
⑤実習指導を充実させるとともに、実習の中途辞退者を 1%以下、実習の不合格者が 0.5%にできて「3」	1 2 3 4
⑥退学者を全体の 2.5%以内にできて「3」。2%以内にできて「4」	1 2 3 4
⑦宮崎学園高校との連携を深め、合同の企画やイベントなどを実施することができて「3」	1 2 3 4
⑧入試広報部から依頼された高校・業者主催の講座をはじめ、保育コースを持つ高校へ出向き、保育科の魅力を伝えることができて「3」。	1 2 3 4
⑨保育科定員 210 名の充足ができて「4」	1 2 3 4
⑩専攻科（福祉専攻）～25名以上の学生が進学して「3」。	1 2 3 4
⑪両附属認定こども園との連携を深め、合同会議や研修会などを軌道に乗せることができて「3」	1 2 3 4
⑫本学紀要への執筆をはじめ、学術論文、学会発表、作品発表等の研究業績数が増えて「3」。	1 2 3 4

#### 評価結果に基づく次年度改善事項（A）

重点目標の1～5のうち1, 2, 4については学科の教員の連携や努力におおむね良い達成がなされた。5の研究の推進は長年の課題であり、教員によって意識に差がみられるが、いくつかの前向きな取り組みも見られている。

問題は何といっても3の学生募集である。

学園高校をはじめとし、入試広報部と連携し、あらゆる機会をとらえ、魅力を伝える努力を続けているが、今年度は中学生も職業体験などを通して直接交流することを計画している。

また、幼児教育に関する行政や保育現場との連携も具体的な取り組みを実施したい。

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【現代ビジネス科】

令和4年度重点目標（P）	
1 学科の専門性の向上と魅力づくり	
2 キャリア教育の充実と進路支援の充実	
3 連携教育の充実	
4 学科定員充足	
重点目標達成のための行動指針（D）	
① 学科改編（新コース制設置）に伴う新教育課程の確実な実施と改善工夫を行う	
② 学科の魅力を向上するために、時代や社会の変化に適切に対応した教育内容を開発する	
③ 学生の初年次教育の充実と基礎学力の向上を図る	
④ キャリア教育をより充実させ、学生の望ましい社会的・職業的自立を支援する	
⑤ 地元産業界、地元企業、関連機関との連携をより一層推進する	
⑥ 高大連携の推進と内容充実を図る	
⑦ 入試広報部と連携した高校訪問、出前授業の充実を図る	
⑧ 学科独自の高校訪問を計画実施する	
⑨ 学生による広報活動の推進を図る	
⑩ 募集拡大のための重点校訪問、新規開拓を計画的に実施する	
重点目標達成度評価（C）	
① 新コースの教育課程を円滑に実施できて 3	1 2 3 4
② 時代や社会の変化に適切に対応した魅力ある教育内容の開発に取り組んで 3	1 2 3 4
③ キャリア教育指導内容充実ための学科内研究を月1回以上開催して 3	1 2 3 4
④ 地元産業界や経済団体、関連機関との新たな連携構築を実現して 3	1 2 3 4
⑤ 高大連携先の高等学校を増やすとともに、連携事業を計画に実施できて 3	1 2 3 4
⑥ 学科定員50名の定員充足が実現できて 3	1 2 3 4
	1 2 3 4
	1 2 3 4
評価結果に基づく次年度改善事項（A）	
次年度（令和5年度）が学科改編の完成年度であるので、学生の進路実現での実績を上げ、学生募集力向上に繋げるとともに、社会の変化やAI技術等の進展に応じた教育内容の改善に努める。また、本年度は学科定員充足の実現に近づくことができたが、学科独自の高校開拓等、学科としての学生募集力の向上に努め、定員充足を最低限の目標にしたい。	

## 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

### 組織名称【 IRセンター 】

<b>令和4年度重点目標（P）</b>	
①本学の教育・研究活動等の可視化・予測・提言を行なう。 ②学修の成果・評価に関するデータの解析ならびにデータの可視化を行なう。 ③教学に関する意思決定支援ならびに学内外への情報開示活動の支援を行なう。 ④政府等へ提出する申請書や大学の評価等に関するデータ提供の支援を行なう。 ⑤大学運営・組織戦略に係る意思決定のための情報活用の推進と支援を行なう。 ⑥大学のICT導入推進に関する提言を行なう。	
<b>重点目標達成のための行動指針（D）</b>	
① 学生の成績（GPならびにGPA等）に関する調査分析を教務部と連携して行なう。 学生の素養・資質の年次的变化の調査分析を学生部等と連携して行なう。 研究活動等の調査分析と提言を自己点検評価推進委員会と連携して行なう。 ② 入学時のアンケートや成績の可視化を教務部と連携して行なう。 就学から卒業までの学業の到達度分析を教務部と連携して行なう。 ③ 就職後の満足度分析をDP推進員会と連携して行なう。 教学に関する大学情報の開示支援を教務部と連携して行なう。 ④ 大学の将来計画推進のための情報収集と分析を行なう。 私学助成等の申請書作成のための高等教育政策等の分析を行なう。 「数理・データサイエンス・AI」プログラム認証に関する取組みを行う。 ⑤ 政策関連テーマの情報収集等を行なう。 中期目標・中期計画及び年度計画の支援を行なう。 客観的データに基づく大学改革・大学運営支援を行なう。 アセスメントポリシーの見直し等についての大学機関の意思決定支援を行なう。 ⑥ 組織活動向上のためのICT等の導入・管理・運用の提言を行なう。 ICT導入推進のための研修会に参加する。	
<b>重点目標達成度評価（C）</b>	
① 各部局と連携して学内のデータ等の集約ができた場合は「3」。	
② 学内データの可視化を図り、資料を関係部局に提供できた場合は「3」。	
③ 学生データの可視化と新たな事実を明らかにできてできた場合は「3」。	
④ 大学の将来計画推進のための情報収集と分析を行い、具体的な実施案の作成支援ができた場合は「3」。	
⑤ 私学助成等の申請書作成のための情報収集・分析と可視化データの提供ができた場合は「3」。	
⑥ 大学改革・運営において、アセスメントポリシー等の見直しに関して大学機関の意思決定支援ができた場合は「3」。	
⑦ 各部局の大学情報開示に関する支援を行うことができた場合は「3」。	
⑧ 組織活動向上のためのICT等の導入・管理・運用の提言できた場合は「3」。	
<b>評価結果に基づく次年度改善事項（A）</b>	
1. 各部局の最新データを100%解析できていない。今後は、多元的データを連結した総合的な解析が必要になることから、学内データの集約・整理・解析マニュアルの作成を進める。特に、分析に必要なデータを各部局、委員会と協働して解析し、改善策を提案していく。	

2. 学内データの可視化を図り、資料を部課長会で関係部局に提供・提案することはある程度できたが、まだ各部局や委員会等での検討と改善に直結できていない。今後は、関係部局の「データの可視化」と分析をIRの方で行うための年間作業スケジュールを提案したい。
3. 学生のGPならびにGPAの年次変化について、可視化、分析を行なった。しかし、毎年実施される恒例的な調査結果に留まっている。今後、卒業時の満足度とGPA等の相関性等について分析し、成績中間層の満足度が低い原因（影響因子）を明らかにしていく。
4. 大学の教学マネージメントの見直しと連動した教学アセスメントの推進を図るための提案を教務部と協働して部科長会等で行っていく。
5. 私学改革総合支援事業（タイプ1）については、情報収集・分析と提案を行い、教職員の方々の協力も進み、3年連続で補助金獲得ができた。更なる教育改革の推進は困難な局面を迎えることになるが、「本学の将来を切り開いていくための教育改革」であるとの共通認識を教職員全体に深められるよう努力する。
6. 文科省より「数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベル」の認証と助成を受けた。しかし、「情報処理概論等」の授業担当を外部講師委託（非常勤講師）にしているため学生への認識・浸透が不足している。今年度から認定証の発行も行うことから、本プログラム内容の理解を深めさせる必要がある。
7. 大学の運営改善に関しては、まだ客観的データに基づく大学機関の意思決定支援を行うに至っていない。次期は、各種委員会と連携して大学改革・大学運営に関する論議を深めていく。
8. 大学の情報開示に関する支援については、上記2.と並行して進める。
9. 次期はIR活動の追加として、「私学改革総合支援事業（タイプ3：地域連携）」の申請に向けて教育改革活動を推進していく。

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

## 組織名称【地域連携センター】

<b>令和4年度重点目標（P）</b>	
① 生涯学習に関して保護者や地域の方々が求めている内容を把握する。	
<b>重点目標達成のための行動指針（D）</b>	
① 保護者等にアンケートを実施する。 生涯学習として参加してみたい講座や視聴してみたいコンテンツについてのアンケート調査を行う。	
② 生涯学習のコンテンツを作成し、本学ホームページに掲載する。 本学教員の知識・技能を活かしたコンテンツを3つ以上作成し、本学ホームページに掲載するとともに、教員紹介のページからも視聴できるようにする。	
③ 本地域連携センターの活動について、本学広報物等で地域に発信する。 入試広報部等からの発行物に掲載してもらうなどの取組をする。	
<b>重点目標達成度評価（C）</b>	<b>評価結果</b>
① 保護者等にアンケートを実施し、生涯学習のニーズを把握できて「3」。	1 2 <b>3</b> 4
② 本学ホームページに生涯学習のコンテンツを3つ以上掲載して「3」。	1 2 <b>3</b> 4
③ 生涯学習のコンテンツを本学ホームページの職員紹介の関係ページにも反映できて「3」。	1 2 <b>3</b> 4
④ 地域連携センターの活動について、本学広報物等で地域に発信できて「3」。	1 <b>2</b> 3 4
	1 2 3 4
<b>評価結果に基づく次年度改善事項（A）</b>	
目標達成度評価①については、5月の2年生保護者会及び10月の1年生保護者会でアンケートを実施し、ニーズを把握することはできたが、2年生保護者23名、1年生保護者32名、計53名のみの出席であり、全体的に実態を把握することはできなかった。今後は、本年度の53名の出席者のニーズが反映できるような本学職員によるWEB講座の開設等を度、検討していきたい。	
②については、4つのコンテンツを掲載できたので、目標は達成できたと考える。今後は、①の保護者等のニーズを反映させることも視野に入れながら内容の充実を図っていきたい。	
また、生涯学習のコンテンツは職員紹介のページからも視聴できるように反映させた。	
③については、目標が達成できなかったことが反省点である。今後は入試広報部の協力を得ながら複数回の掲載をお願いしたいと考えている。	

## 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【 こども音楽教育センター 】

令和4年度重点目標（P）	
① センターに通う在籍者一人ひとりの姿に合わせた音楽療法・音楽療育の実践を行う。	
② 一人ひとりに合わせたよりよい支援が行われるよう保護者との連携に力を注ぐ。	
③ 地域に貢献できるセンターとして役割を果たす。	
④ 音楽療法実習・こども音楽療育実習の実習現場としての学生の学びの質を保証する。	
重点目標達成のための行動指針（D）	
① 年度初めに在籍者（個別・グループ）のセッション年間目標を立て、センター担当教員と共有する。また、検討会を実施し、互いにセッション状況を語り合う場をつくる。	
② 保護者への情報発信として「こども音楽教育センターだより」を発行する。また、保護者と情報交換が円滑に進むような方策を検討する。	
③ 本学HPにて情報発信を継続して行う。	
④ 音楽療法実習・こども音楽療育実習が学生主体の学びとなるよう体制を整えていく。	
重点目標達成度評価（C）	
半期に1回、事例検討会を実施して「3」	1 2 3 4
「こども音楽教育センターだより」を年間5回発行して「3」	1 2 3 4
HPに2か月に1回セッションの様子や実習の様子を掲載して「3」	1 2 3 4
学生主体の学びに繋がる音楽療法実習・こども音楽療育実習の記録簿作成に取り組んで「3」	1 2 3 4
音楽療法実習・こども音楽療育実習の授業評価アンケートの結果が4.6以上で「3」	1 2 3 4
評価結果に基づく次年度改善事項（A）	
<p>達成目標に掲げた項目について達成できなかつたものが多かつた。センタースタッフ全員での検討会ではなく、新規の利用者受付の際のアセスメントについてのミーティングはその都度担当者と行ったが、現在受け入れている方々に対するセラピー及びレッスンの質を向上させていくためにも全員で事例検討する時間を設ける必要がある。また、情報発信のためのおたよりは年間3回の発行に留まつた、保護者の方々に日頃の様子を知つていただくため、また短大の教職員の皆さんにも知つていただくために、おたよりの発行、HPへの記事掲載を令和5年には取り組みたい。</p> <p>また、音楽療法実習・こども音楽療育実習について評価アンケートを実施しなかつたため、数値が図れなかつた。次年度は必ず取り組む必要がある。</p> <p>達成目標にはなかつたが、「スプリングコンサート」を開催できたことは大きな成果と言えると思う。今年度は音楽療法実習・こども音楽療育実習として学生も参加するように計画したことが非常に大きな学生の学びになつた。コンサートでは、「一人ひとりの音を響かせる」「ありのままの表現を認め合う」ということが実現できており、日々のセラピーやレッスンでの取り組みの成果が見える時間となつた。保護者にとってもよい時間となつた。コンサートは毎年1回継続して取り組んでいきたい。</p>	

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【自己点検・評価推進委員会】

令和4年度重点目標（P）	
① 教職員の個人成果が反映される「個人点検・評価票」の改善に取り組む。 ② 「個人点検・評価票」作成の目的を明らかにする。 ③ 自己点検・評価活動が個人のPDCAの実践を促し組織の成長に繋ぐよう改善を検討する。	
重点目標達成のための行動指針（D）	
① 「個人点検・評価票」の新フォームの改善を行う。 ② 「個人点検・評価票」の記載内容と全学で取り組んでいる事項との整合性を整える。 ③ IRセンター及び戦略企画委員会と連携し、各学科からの情報、教職員の意見を収集する。	
重点目標達成度評価（C）	評価結果
① 「個人点検・評価票」の新フォームの提案を行えたら「3」	1 2 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">3</span> 4
② 新フォームでの作成、記入管理が行えたら「3」、記載内容を昨年度より充実させることが出来たら「4」	1 2 3 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">4</span>
③ 「個人点検・評価票」作成の目的を会議等で発信できたら「3」	1 2 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">3</span> 4
④ 自己点検・評価の運用が、教職員の自己管理や職能向上、組織への貢献に繋がる意見の集約ができたら「3」	1 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2</span> 3 4
⑤ 課題を明らかにし、改善のための計画を策定できたら「3」	1 2 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">3</span> 4
評価結果に基づく次年度改善事項（A）	
<p>年度当初に提案した新フォームにより、個人点検票の集約をすることができた。その結果、前年度までのフォームに比較し、空欄部は大きく削減され、新フォーム提案には一定の効果があったと言える。本年度は、教職員が日々努力を行っていることの記載がしやすくなったことに加え、シラバスに掲載しているアクティブラーニングやICT機器利用などの授業内での創意工夫も記載事項に加えるように声掛けを行った。次年度もさらに、授業内での工夫や学生への個別指導、実習や就職支援など、個々の教職員の努力が記載へと繋がるように活動していきたい。本学の特徴とも言える、きめ細やかな教育サービスが教職員個々のレベルでも示すことを目標にしたい。</p> <p>また、新型コロナ感染拡大は収束に向いつつあるが、「自己点検・評価相互交流会」は恒例行事としては見直しの方向にある。それに代わる、「教職員の自己管理や職能向上、組織への貢献に繋がる意見の集約」の方法を次年度には提案していきたい。</p> <p>加えて、「教育プログラム」の評価や「教学マネジメント」の中での委員会の位置づけなど、全体の動きの中で活動が行えるよう、IRセンターと戦略企画委員会との連携を行っていきたい。</p>	

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【 FD 推進委員会 】

## 令和4年度重点目標（P）

- ① 学生を学修主体として育て、主体的学びを促せるよう、教員の教育力向上のために教育研究活動を推進する。
- ② ICT を活用した新たな授業方法の効果について、提案・実践を行う。
- ③ FD ミーティング等を通じて、教育力向上に向けた組織的な取り組みを行う。
- ④ 教育力向上のために「教育研究」を発刊し、教員の研究活動を推進する。
- ⑤ 教育力向上を通じて、学生の入学満足度 85%以上を達成する。

## 重点目標達成のための行動指針（D）

- ① 学生主体の学修環境、授業方法（対面・遠隔授業を含む）についての検討・提案等を行い、教育の質向上につなげる。
- ② 学生が主体的に学修に向かうための効果的な Zoom、YouTube（オンデマンド配信）、Google Forms、Google Classroom、ユニバ等の活用方法について検討し、教員が授業内で実施できるようにする。
- ③ 教員のコーチングスキルの向上や協同学習の取り組みを促すことを目的とした FD ミーティングや FD・SD 合同研修会を開催する。また FD・SD ニュースの発刊を行う。
- ④ 「教育研究 第 19 号」の編集・発刊を行う。
- ⑤ 学生との好ましい人間関係を醸成しながら必要な情報共有を行い、学生の自律への支援を組織的に促進する。

## 重点目標達成度評価（C）

評価結果

① 学生主体の学修環境、授業方法についての検討・提案ができる「3」	1 2 <b>3</b> 4
② ICT の活用方法を提案し、教員が授業内で新たに実施できる「3」	1 <b>2</b> 3 4
③ FD ミーティング等を開催し、教育力向上の研修内容に対して教員から「有意義であった」という意見が 85%以上得られて「3」	1 2 <b>3</b> 4
④ 「教育研究 第 18 号」の発刊を行い、教員の教育研究活動を推進することができる「3」	1 2 <b>3</b> 4
⑤ 学生生活調査において「相談できる教職員がいる」の回答率が 80%以上で「3」	1 <b>2</b> 3 4

## 評価結果に基づく次年度改善事項（A）

長引くコロナ禍で、予定していた研修内容の変更があったり、全学 FD として十分な研修会の実施ができなかったりと、反省すべき点が多いに残る一年となった。

行動指針として掲げた学生主体の学修環境、授業方法（対面・遠隔授業を含む）についての検討・提案等においては、8月に北九州市立大学の見館好隆氏による講演「DP の弱点を、教員全員の FD（授業改善）で乗り越える」をきっかけとして、各自の授業内容や授業方法、評価項目の見直し等の啓発に繋がったのではないかと考える。また FD・SD ニュースの発刊については、滞りなく実施できた。さらに「教育研究 第 19 号」の編集・発刊を行ったことで、教員の教育研究活動の推進に微力ながら寄与できたと考える。

一方で、学生との好ましい人間関係を醸成しながら必要な情報共有を行い、学生の自律への支援を組織的に促進するという点においては、学生生活調査での「相談できる教職員がいる」の「いる」という回答が 80%以上で「3」としていたが、実際は 72.1%と低迷した。ただ、目標としていた「学生の入学満足度 85%以上の達成」については、90.9%の結果となったので、教員個人の努力による結果と言えるのではないだろうか。次年度は、SD 委員会との連携を深めながら、全学での FD 研修会をもっと充実した内容を企画・実施できるよう努力したい。

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

## 組織名称【図書委員会】

令和4年度重点目標（P）	
① 学生の読書離れが進む中、「自分が自分のために貢献すること」として、読書週間を身に付けられるような取組を推進する。 ② 学生の読書への意欲向上や興味付けとなる取組を行い、学生生活調査における「読書の週平均」の「ほとんどしていない」の割合を8割以下とする。	
重点目標達成のための行動指針（D）	
① 学生部と連携し、ガイダンスアワーにて「読書に親しもう」の時間を設け、学生が主体的に読書に取り組めるようにする。 ② 読んだ本の紹介を行うことで新たな分野への興味を広げ、読書習慣が身に付くようにする。 ③ 定期的に学生から本の紹介をお願いし、デジタルサイネージ等で紹介する。	
重点目標達成度評価（C）	評価結果
① ガイダンスアワーにて「読書に親しもう」の企画を立案、実施できて「3」	1 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4
② 学生生活調査における「読書平均」の「ほとんどしていない」の割合が8割以下となって「3」	1 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4
③ 定期的に学生の紹介文をデジタルサイネージに掲載できて「3」	1 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4
評価結果に基づく次年度改善事項（A）	
①ガイダンスアワーにて「読書に親しもう」の企画を立案し、全学級同時時間帯に実施することができた。学習形態や内容の進め方、学生個々へのフィードバックの仕方等は各学級の実態に応じて学級主任が指導することにより学生の読書への関心や意識付けを図ることができたと考える。習慣化を図ることが今後の課題である。	
②学生生活調査における「読書の週平均」の「ほとんどしていない」の割合は、4月の調査では、78.0% 10月の調査では、74.6%であり、目標としていた8割以下に到達できた。背景として、「読書に親しもう」を取り入れたことにより、読書をする学生が増えたと考えられる。尚、昨年の12月の調査では、「ほとんどしていない」の割合が80.4%と読書離れが懸念されたが、今年の10月の調査と比較すると5.8%と「ほとんどしない」の割合が減っており、読書への興味・関心が増えたと推測される。今後も動向を見守っていきたい。	
③デジタルサイネージに本の紹介文を掲載することに関しては、当初、保育科1年生の図書委員に声をかけ5月、6月と増えて行った。しかし、リレー形式に繋ぐことがなかなか困難で、途中で途絶えてしまった。結局、保育科1年生4人、2年生1名の計5名であった。	
※次年度も、ガイダンスアワーにおいて「読書に親しもう」を企画し、学生への読書への意識を高めるとともに、定期的にデジタルサイネージへの掲載も継続していきたい。また、図書館との連携がうまく図れるような工夫も取り入れていきたい。	

## 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【研究推進委員会（紀要編集委員会）】

<b>令和4年度重点目標（P）</b>	
①本学教員の研究の推進	
②宮崎学園短期大学紀要の円滑な発行	
③研究コンプライアンスの推進	
<b>重点目標達成のための行動指針（D）</b>	
①本学教員の研究内容を紹介する（共同研究への発展も期待される）。	
②委員会内で協働し、本学紀要の編集作業を行う。	
③研究コンプライアンス推進のための活動を行う（情報共有・啓発活動等）。	
<b>重点目標達成度評価（C）</b>	<b>評価結果</b>
①年3回以上、本学教員の研究紹介の機会を設けられて、「4」	1 2 3 ④
②3月末までに円滑に本学紀要が発行できて、「4」	1 2 3 ④
③年3回以上、研究コンプライアンス推進のための活動ができる、「4」	1 2 3 ④
<b>評価結果に基づく次年度改善事項（A）</b>	
今年度は重点目標達成度評価に関わる項目内容は全て達成することができた。しかし、研究推進のための方策としては、本学教員の研究紹介以外にも様々なことが考えられる。委員会の業務負担や教職員の負担にならないよう、どのように研究推進を進めていけるかが、次年度の検討課題である。それと関連して、本学紀要の編集スケジュール（投稿期限等含む）や編集体制の見直しも課題としてあげられる。研究コンプライアンス推進のための活動もより効果的なあり方を考えていきたい。	

## 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【 SD推進委員会 】

### 令和4年度重点目標（P）

- ①大学事務職員としての専門性向上
- ②卒業時満足度調査での満足度向上

### 重点目標達成のための行動指針（D）

- ①各研修会へ積極的に参加する
- ②学生への挨拶・声掛けを積極的に行い、取り残される学生を見落とさない

### 重点目標達成度評価（C）

評価結果

①大学職員としての専門性向上に繋がる研修を7回実施して「3」

① 2 3 4

②入学満足度調査「事務職員との出会い」、学生部調査「相談できる教職員がいる」で80%を達成して「3」

1 ② 3 4

1 2 3 4

1 2 3 4

1 2 3 4

### 評価結果に基づく次年度改善事項（A）

- ・本年度のSD活動は、内容や実施時期等がうまくまとまらず、事業計画等に記載した事項を実行できなかった。次年度はFD推進委員会と連携し、充実した内容を提供できるよう努力したい。
- ・入学満足度調査「事務職員との出会い」83.7%、学生部調査「相談できる教職員がいる」69.8%となり、両方で80%を超えることができなかった。学生が相談しやすい環境づくりをすすめる必要があると感じた。

# 令和4年度 組織のPDCAチェックシート

組織名称【 戰略企画委員会 】

## 令和4年度重点目標（P）

- ①中長期計画 2021-2030 の進捗状況の確認及び変更の必要性について検討
- ②外部評価委員会の実施方法について検討し、実施する。

## 重点目標達成のための行動指針（D）

- ①
  - ・各組織と連携して中長期計画の進捗状況を確認する。
  - ・同窓会との連携について戦略企画委員会と同窓会とで協議し、コロナ禍で可能な方策について検討する。
- ②
  - ・外部評価委員会の開催方法について協議し、新たな方策を提案する。

## 重点目標達成度評価（C）

評価結果

①令和4年度分の中長期計画の実施状況の把握と実行を促進することができて「3」

1  3 4

②同窓会と連携して卒業生支援に関する企画・計画ができて「3」

2 3 4

③新たな外部評価委員会の形を決め、実施ができて「3」

2 3 4

1 2 3 4

1 2 3 4

## 評価結果に基づく次年度改善事項（A）

中長期計画の履行状況については、事務局を除き順調に進めることができている。進捗状況が悪いところは改善を促していく。同窓会との連携については、コロナ禍で出来る企画を模索しているところであるものの、実行できなかった。次年度は確実に実行できるよう各学科とも協力したい。

## <2022年度前期授業評価アンケート集計結果>

### 1. 令和4年度授業評価報告

#### 1) 設問内容 :

- 設問1 私はこの授業にきちんと出席し、熱心に取り組んだ。
- 設問2 先生は授業の学習目標をわかりやすく、はっきり示していた。
- 設問3 授業の内容は興味深く、気づかされ、考えさせられることが多かった。
- 設問4 授業は重要なポイントが明確で、わかりやすかった。
- 設問5 先生は、学生が理解できるように周到な準備をし、授業方法を工夫していた。
- 設問6 先生の声は明瞭で聞き取りやすかった。
- 設問7 先生は、学生の反応をしっかり受け止め、必要なときは適切な指導・助言をしてくれた。
- 設問8 この授業を受講してよかったです。
- 設問9 シラバス・授業科目内容の授業目標は達成された。
- 設問10 担当教員より指示がある場合のみ解答してください。
- 設問11 この授業のどの点が良かったと思いますか。
- 設問12 この授業について、もっとこうしてほしいなどの要望があれば書いてください。
- 設問13 あなた自身の授業への取り組みの様子や授業についての感想など、自由に書いてください。

### (2) アンケート調査結果

#### 1) 設問1~9の回答数と評価結果

- 回答数(回答率) : 4373件 (77.7%)
- 授業評価平均点 : 4.85 (前年度 4.80)

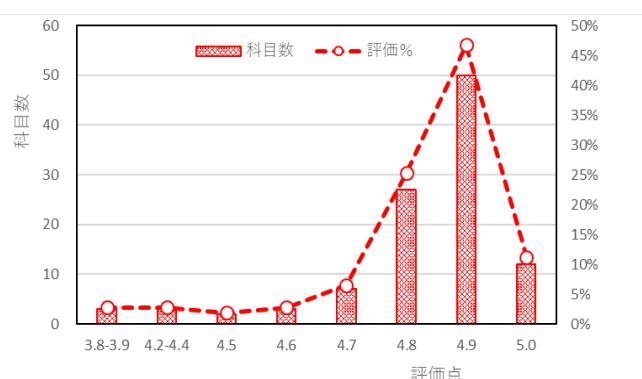


図1 授業評価点と科目数の関係

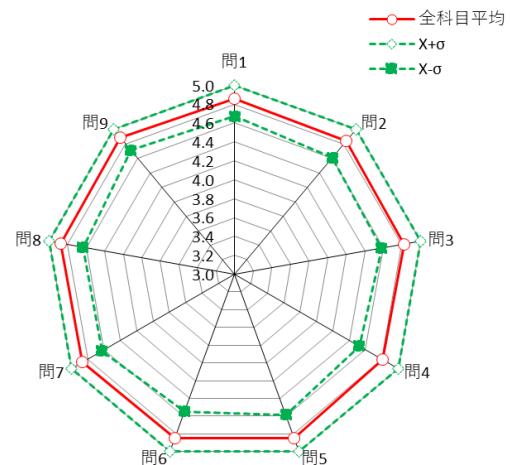


図2 2022年度前期授業評価（全科目）

表1 設問1~9の評価結果

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	全問平均
全科目平均	4.9	4.8	4.8	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9
標準偏差	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2
回答数	4373	4373	4373	4373	4373	4373	4373	4373	4373	4373
未回答	1256	1256	1256	1256	1256	1256	1256	1256	1256	1256
回答率%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%	78%

## <後期>

### 1) 設問1～9の回答数と評価結果

- 回答数（回答率）：4222件（65.2%）  
前期：4373件（77.7%）
- 授業評価平均点：4.80（前期4.85）

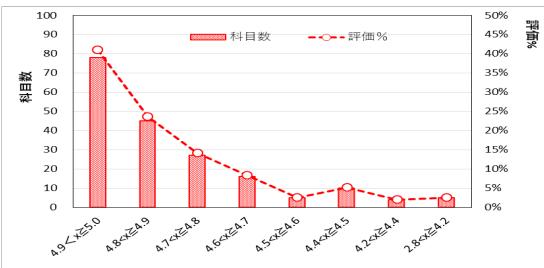


図1 授業評価点と科目数の関係

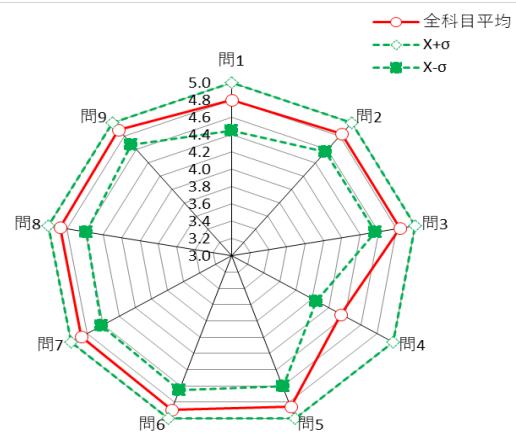


図2 2022年度後期授業評価（全科目）

表1 設問1～9の評価結果

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	全問平均
全科目平均	4.80	4.84	4.84	4.36	4.86	4.89	4.87	4.87	4.90	4.80
標準偏差	0.3482	0.2639	0.2714	0.3102	0.2509	0.2406	0.2466	0.2873	0.2229	0.2713
回答数	4222	4222	4222	4222	4222	4222	4222	4222	4222	4222.00
未回答	2251	2251	2251	2251	2251	2251	2251	2251	2251	2251.00
回答率%	65.2%	65.2%	65.2%	65.2%	65.2%	65.2%	65.2%	65.2%	65.2%	65.2%

## 令和4（2022）年度諸データ

**入学者数の推移**  
(令和4年5月1日現在)

入学者

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
保育科	220	197	202	186	154
現代ビジネス科	39	38	30	42	38
学科計	259	235	232	228	192

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
専攻科(福祉専攻)	25	14	25	25	11

## 令和3年度 宮崎学園短期大学(令和4年3月19日卒業・修了)就職・進路状況表

卒業・修了者 数	就 希 望 者 数	就 職 者 数	就 未 定 者 数	就 職 率
246名	229名	229名	0名	100.0%

★進学13名(専門学校2名、専攻科など内部進学11名)

### 学科別就職状況

学 科	保 育 科	現 代 ビ ジ ネ ス 科	專 攻 科	合 計
卒 業 者 数	194名	27名	25名	246名
就 職 希 望 者 数	180名	24名	25名	229名
就 職 者 数	県内 171名	22名	25名	218名
	県外 9名	2名	0名	11名
就 職 率 ( % )	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就 職 未 定 者	0名	0名	0名	0名

県内就職率 95% 92% 100% 95%

**退学・除籍者数**  
(令和4年5月1日現在)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
保育科	9	21	18	9	8
現代ビジネス科	2	6	2	5	5
本科計	11	27	20	14	13
うち除籍者数	1	2	3	3	2
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
専攻科(福祉専攻)	1	0	0	1	0